

# しんりんかんだより

年主題

「ともに喜んで」

月主題 3F/2F ゆったり/祈り合う

‘21年 第5号 (vol.53)

2021年8月2日発行



「なかま」

登園してきたMちゃんは同じクラスのU君と遊びたくて声を掛けました。でもお気に入りの動物たちのお家を作って自分の遊びの世界に没頭していたU君は「えーっやだー」とつれない返事でした。「ねえどうして一緒に遊んでくれないの」とM君は自分の気持ちを受け入れてもらえない事にどんどん苛立ちはじめました。2人のやりとりを見ていた年少のI君はどちらにも声を掛けられずに間をうろうろして様子を伺っていました。こんな時年長のT君がいれば「どうした〜」とやさしく声を掛けて話を聞いてくれるのに、その日はまだ登園していませんでした。どうするかな、と様子を見てみると、ほどなくしてU君、M君、I君の3人がテーブルを囲んで談笑していました。一体何が起こったの？と目を疑うほど楽しそうに話していました。

昨年のお泊まり保育で、朝年長組のリーダー的存在だったS君が2日目の朝食の時 急に保育者の胸に飛び込んできて、シクシクと泣きだしました。保育者が黙って抱き留めっていると周りの子どもたちも静かにその姿を見守っていました。誰一人「S君泣いてる」と言わずに待っていたその時間は、みんながS君の気持ちに寄り添っていたのだと思います。お泊まり保育から帰ってきてからも、誰もS君が泣いたことを話題にしませんでした。

黙っていても心が通じ合う、それが共に育ちあってきた仲間です。以前に働いていた保育園の卒園児が今回の東京パラリンピックに出場します。スポーツ万能だった彼女が高校の体育の授業中の怪我で腰から下の神経が麻痺してしまいました。どん底に落ちた彼女の気持ちを救い、支えとなったのは、保育園で共に育ちあってきた仲間でした。親隣館保育園での子どもたちも人生の困難に直面した時に心の支えになれるような、真の仲間と呼べる存在になってくれたら嬉しいです。

(主任 鹿糠 正美)